

太陽誘電グループの 研究開発活動

未来創発の源

当社の創業者である故佐藤彦八はセラミック素材の研究者であり、当社は創業以来、素材の開発から出発して製品化を行うことを信条としてきました。これは当社の強みでもあり、多くの「世界初」の商品をこれまでに生み出してきました。

当社グループは、創業以来培ってきた数々の要素技術にさらに磨きをかけ、お客様に高く評価していただける商品を創出するべく研究開発に取り組んでおり、特に、「スーパーハイエンド商品」の開発に注力しています。

研究開発方針

“桁を変える”

先行性

商品開発の前に技術開発を先行させ、
かつ、世の中のレベルよりも先行していること

再現性

開発した技術の再現性が、論理的に検証されること

汎用性

開発した技術が特定の商品に応用されるだけでなく、
汎用性のある技術であること

合理的環境適合性

開発した技術が生産に対して合理的であり、
かつ、環境負荷に配慮された技術であること

グリーン商品開発を通じたビジョンの実現

「電子機器にさらなる進化を求めながら、同時に環境負荷を低減したい」というジレンマを解決する方法として有効な方法の一つは、内部に搭載される電子部品を高性能化することです。

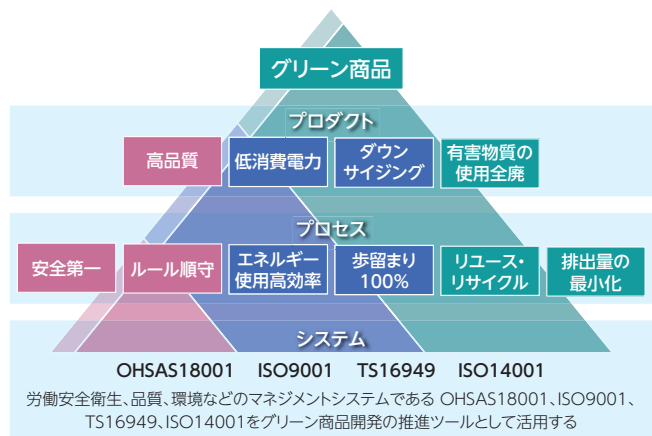
高性能化された部品は、小型化(使用される部材の削減)や電力効率の向上(消費エネルギーの低下)などの改善により、いずれも各機器の高性能化をサポートしつつ、環境負荷の低減を実現します。また、電力を使用するものすべてにとって有効なため、社会全体にとっても有益であると考えています。

当社グループは「環境負荷低減に貢献することができる電

子部品」を「グリーン商品」と位置付け、安定供給を目指しています。製品使用時の環境配慮だけでなく、設計から生産、販売、最終製品への搭載・廃棄に至るまで、あらゆるプロセスでの「ムダ・ムラ・ムリ」を省き、お客様、地域社会、従業員にとって価値ある製品を作ります。

当社グループでは、研究開発活動を通じて、グリーン商品をより高い水準で実現することにより、「お客様から信頼され、感動を与えるエクセレントカンパニーへ」というビジョンを実現することが可能となると確信しています。

お客様から信頼され、感動を与えるエクセレントカンパニーへ



- **高品質**
顧客要求を満足し、信頼性の高い製品
- **低消費電力**
優れた能力をもち、電力を大量消費しない製品
- **ダウンサイジング**
少ない材料で大きな能力を発揮し、最終商品の小型化・高機能化に貢献する製品
- **有害物質の使用全廃**
有害物質を含まない製品
- **安全第一**
安全が考慮された生産工程で作業者がムリなく、安心して作業ができる
- **ルール順守**
ものづくりにおけるバラツキを小さくするため、標準化された手順に従って作業する
- **エネルギー使用高効率**
ものづくりで使用するエネルギーを極小化する
- **歩留まり100%**
高品質な製品を安定生産し、不良品などのムダを発生させない
- **リユース・リサイクル**
生産に必要な材料はできる限りリユース(再使用)品・リサイクル(再利用)品を使用する
- **排出量の最小化**
生産工程におけるムダと排出物をできる限りゼロに近づける

研究開発トップインタビュー

お客様のニーズを見据え、常に最先端領域での研究開発に挑戦します。

取締役 常務執行役員（品質保証、開発・技術担当） 登坂 正一

太陽誘電にとって研究開発は当社の未来を創発するための源です。

積層セラミックコンデンサにおいては、材料となる誘電体の粒子をより小さくする一方で、エネルギーを多く蓄えられるようにするという両立が難しい取り組みを続けるなど、各事業分野で材料開発の段階から独自性を発揮し、市場ニーズに応える“世界一・世界初”の商品開発に挑戦し続けています。

もっとも、技術的にははずばらしい研究成果であってもビジネスにおいては収益に結び付かないことが往々にしてあります。そこで、研究開発部門の目線のみで開発を行うのではなく、お客様に近い営業部門や事業部門と一体となって、お客様が求めるタイミングで新商品を提供できるよう活動しています。研究開発の体制として、お客様の商品開発スケジュールに応じた中期的な開発と、長期的な技術

レンドを見据えた基礎研究へのリソース配分は黄金比*を狙って取り組んでいます。

さらに当社は提供するすべての商品を、設計から廃棄までの製品ライフサイクル全般でムダ・ムラ・ムリを削減し、安全・環境・品質・コスト・納期の各々の価値を高める「グリーン商品」とするべく取り組みを続けています。そのことが、新しい成長ステージを生み出し、当社を取り巻く環境との共存共栄の好循環を生み出すと確信しています。

*黄金比: $(\frac{1+\sqrt{5}}{2} : 1)$ で表され、古代ギリシャ時代より調和的で最も美しい比とされる。はがきや名刺等の縦横比に利用されることが多い。



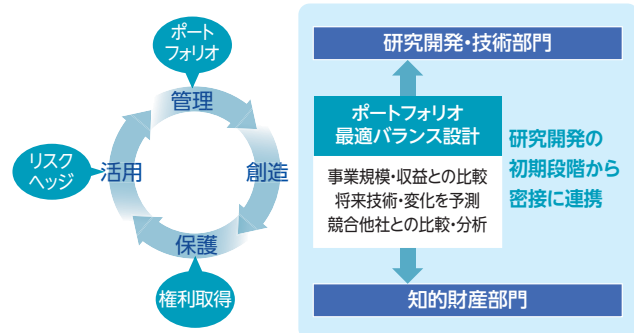
知的財産活動

基本方針

当社グループは、保有する知的財産権を適切に利用しその権利化および権利の維持に努め、第三者の知的財産権を尊重することを知的財産活動の基本方針として、当社グループ行動規範に則り、知的財産権の保護・活用に取り組んでいます。

知的財産権の保護に関する活動

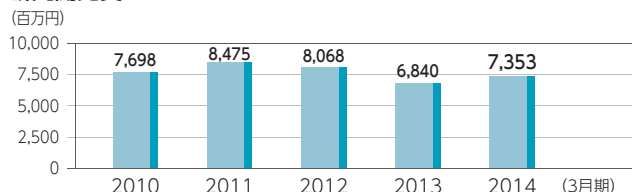
他社に先駆けた研究開発活動を推進し、その成果を確固たる知的財産権として獲得するために、知的財産部門では研究開発の初期段階から、研究開発・技術部門と密接に連携した活動を推進しています。また、知的財産の創造・保護・活用を、それぞれの事業に最適化された独自のマネジメント手法で運用しています。



研究開発費

研究開発により技術を革新し続けることは当社グループの未来を創発するための源であると認識し、研究開発費には継続して一定の金額を投じています。

研究開発費



研究施設「R&Dセンター」(群馬県高崎市)

太陽誘電は「技術の太陽誘電、開発の太陽誘電」を標榜して、継続的に世界一となる商品を生み出し続けるため、R&Dセンターを1998年に開設しました。2003年には、電波暗室棟を併設し、無線通信分野への積極的な研究・開発を加速させ、現在も太陽誘電の開発力・技術力の源泉、未来への創発の礎となっています。

